

夢追い人

古賀鏡台社長 古賀俊一さん



ANGEL NIGHT

MANAZASHI



北原白秋ゆかりの柳川「松月文人館」開館記念として、「美の競演 第1回春展」が今開催中である。この展示会のプロモーターは、当会議所会員の古賀俊一さん（古賀鏡台社長）。会場も由緒あるところであるが、展示作品も指物、建具、磁器、木版画など豪華かつ異色のものになっている。入場は無料。

鶴田一郎の作品

顔ぶれ、作品、会場とも異色の華々しい組合わせとなったが、古賀さんはなぜこの展示会を企画したのだろうか。古賀さんはこう語る。「松月の社長と元々知り合いであったこともあったのですが、60畳敷大広間の会場を実際に見たとき、そのすばらしさに感動を覚え、是非この会場でイベントを開きたいと思いました。」

また、5月9日までは、「榎津指物」と「組子建具」の展示も行われている。「榎津指物」は、古賀さんコダワリの純木家具で、華胥の夢博で注目を浴びた、駕籠タンスやからくりタンスなど楽しい作品だ。また、丹念に組み上げた組子建具は、木下久馬人さん（伝統11芸士、木下建具社長）の作品で、屏風、衝立、行灯、ガラス戸、テーブルなどが並んでいる。

4月1日から28日までは、西山正氏作の「青白磁」と井堂雅夫氏作「創作木版画」の展示で、西山氏は、人間国宝井上萬二氏に教えを受けた名人で日本工芸会正会員。受賞歴多数。井堂氏も版画界では著名、三軌会評議員。多くの入選のほか世界中の美術館に作品が所蔵されている。NHKの大河ドラマのタイトルバックに過去3度も採用されている。見応えある作品が並んだ。

4月29日から5月9日までは、鶴田二郎氏作の「美人版画」の展示会となっている。最新作を含む多数の版画作品が並ぶ。即売もする。鶴田氏は、東郷青児、竹久夢二などと並び称される当代美人画の名手で、資生堂テレビCMでもおなじみの作家だ。日本女性の持つ美しさを独特のスタイルで描く。柳川や大川では愛好家の間で話題となっている。

でもこれだけのメンバーをよく集められたものだ。

「ええ、もう当たって砕けるの気持ちで交渉しました。さまざまなツテを頼って。鶴田さんの場合は福岡の知人の紹介で、井堂さんの場合は、単身京都まで乗り込んで交渉をしました。でも、会場が多くの人々ゆかりの風情あるところだったので、有利に働いたと思いますよ。」古賀さんは、春展につづき、秋展も計画している。どんな展示会になるか、楽しみだ。



松月には、北原白秋が、与謝野寛、木下幸太郎、吉井勇らと、また死去前年の昭和17年にも多数の弟子たちと「松月」を訪れた際色紙に残した詩歌や絵、そのほか大正期の文人たちの色紙や作品が数百点保存されている。

「松月文人館」開館記念「美の競演・第1回春展」は、見応えある展示会。一見の価値あり。5月9日まで、鶴田一郎の世界も楽しめる。